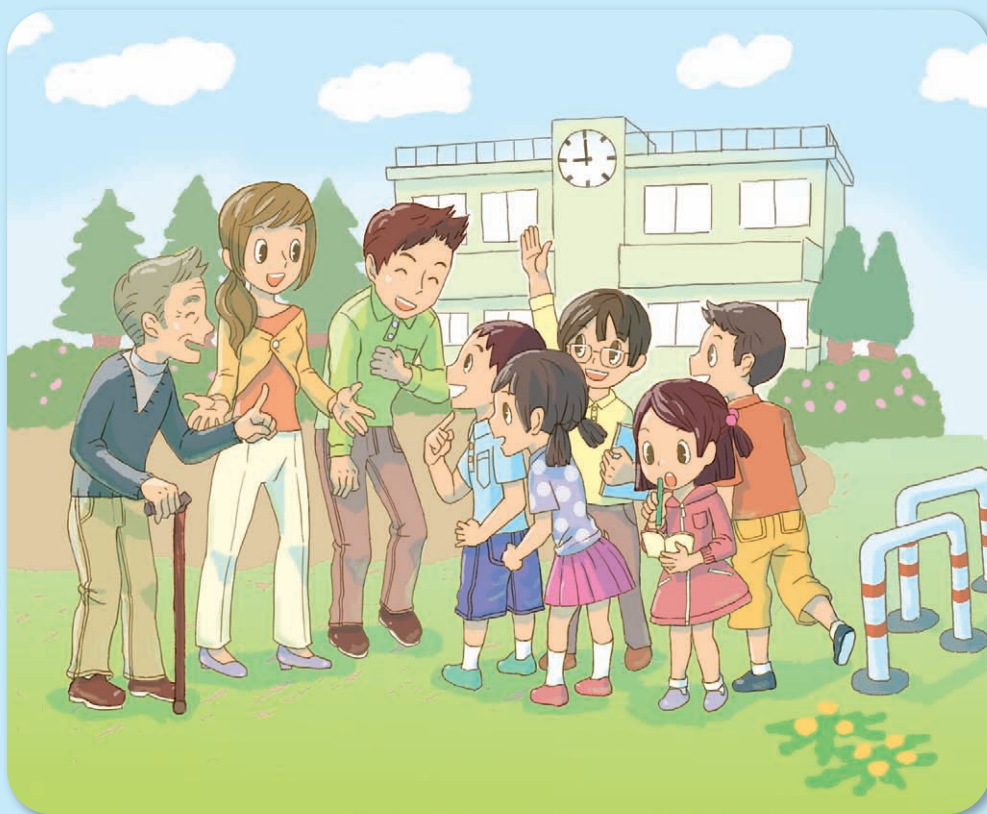


地域連携教員のための手引き書

学校と地域を結ぶ

～学校と地域の連携を進めるノウハウ～



栃木県教育委員会

は じ め に

これからの社会を生き抜いていく子どもたちには、自立した人間として、他者と協働しながら様々な課題を解決していく力が求められています。そのような力は、学校における学びを基盤として、地域の多様な人々と関わりながら、様々な経験を積み重ねていくことを通して育まれるものであり、そのような機会を、学校と地域が共に協力しながら創り出していくことが必要になっています。

本県では、平成28年2月に「栃木県教育振興基本計画2020－教育ビジョンとちぎ－」を策定し、様々な教育施策を展開しています。そして、本県教育の基本理念を「とちぎから世界を見つめ 地域とつながり 未来に向かって とともに歩み続ける人間を育てます」とし、子どもたちが地域と関わり行動する中で、未来の社会がどのように変化したとしても、自信をもって一歩前に歩み出し、未来を拓く力を身に付けることを目指しています。

一方、国においても様々な教育改革の方向性が打ち出されており、学校と地域の連携を基盤とした取組が展開されようとしています。平成27年12月に中央教育審議会より出されました3つの答申は、これからの教育の在り方について包括的に提言したものであり、学校と地域の「パートナーとしての連携・協働関係」への発展を目指すものとしております。そして、「社会に開かれた教育課程」、「カリキュラム・マネジメント」、「チーム学校」、「アクティブ・ラーニング」、「地域連携担当教職員の設置」等、地域の教育資源を活用した取組が打ち出されており、特に、地域連携担当教職員の設置については、本県では既に平成26年度から設置しているものであり、本県の制度が国の施策のモデルとなっている状況です。

この地域連携教員の制度は、開始から3年を経過したところですが、地域連携教員の皆様の御尽力により、様々な成果が現れてきております。今後とも、県教育委員会といたしましても、地域連携教員の活動支援に関する取組を、推進していくこととしておりますので、地域連携教員の皆様の一層の御活躍を期待いたします。

本手引き書は、これまで地域連携教員の皆様が課題に感じているものについて、どのように取り組めばよいかを考えていただくことができるよう作成したものです。内容としては、学校と地域の連携の目的や意義、目指す姿等をまとめた「理論編」と、具体的なケースを想定してその解決のための手順を示した「実践編」の2部構成といたしました。本手引き書が、地域連携教員の皆様の課題等を解決し、より充実した実践活動推進のための指針となることを期待しております。

平成29年3月

栃木県教育委員会教育長 宇田 貞夫

目次

理論編

1 学校と地域の連携の推進

(1) 学校と地域の連携で何が変わるのか

① 子どもたちにとって期待される効果	1
② 教職員にとって期待される効果	2
③ 地域や保護者にとって期待される効果	2
④ 学校にとって期待される効果	3

(2) 学校と地域の目指すべき連携・協働の姿

4

(3) 地域連携の視点

5

(4) 地域の概念と連携活動の捉え方

① 発達の段階による連携活動の目安	6
② 発達の段階による地域の捉え方	6
③ 発達の段階にみる取組事例	7

2 地域連携教員について

(1) 地域連携教員を設置する目的

① 地域連携教員設置の目的	9
② 地域連携教員の制度が目指す連携体制	9

(2) 地域連携教員の活動とは

① 地域連携教員の職務	10
② 地域連携教員の活動状況	11

(3) 地域連携教員の活動事例

① 市貝町立市貝小学校	12
② さくら市立熟田小学校	12
③ 足利市立愛宕台中学校	13
④ 栃木県立宇都宮南高等学校	13
⑤ 栃木県立小山北桜高等学校	14
⑥ 栃木県立那須特別支援学校	14

3 コーディネーターについて

(1) コーディネーターとは

① コーディネーターの役割	15
② コーディネーターとなる人	16
③ コーディネーターの設置状況	16

(2)コーディネーターとの連携による効果

① ボランティア人材の発掘	1 7
② ボランティア活動のマネジメント	1 7
③ 情報の収集・発信	1 8
④ 学校を核とした地域づくりへの支援	1 8

(3)コーディネーターの探し方（学校独自で探したい場合）

① 探すための情報源	1 9
② 校種によるコーディネーターの傾向	1 9
③ 設置の手順（例）	2 0

実践編

4 地域と連携した活動を進めるために

Scene 1 あなたの学校の連携状況を確認する	2 1
Scene 2 学校全体の連携活動の総合調整を行う	2 3
Scene 3 教職員間の共通理解を図る	2 5
Scene 4 教職員の求めに対応する	2 7
Scene 5 コーディネーターとの意思の疎通を図る	2 9
Scene 6 ボランティアに快適に活動してもらう	3 1
Scene 7 子どもたちの教育活動の充実を図る	3 3
Scene 8 学校の状況を地域に知ってもらう	3 5
Scene 9 連携活動を継続する	3 7
Scene10 連携活動の成果を見える化する	3 9

5 体制づくりのためのヒント

(1)連携活動を推進するための組織づくり	4 3
(2)学校を核とした地域づくりのために（社会教育との連携）	4 5
(3)学校を核とした地域づくりのために（社会教育行政との連携）	4 6

参考資料

(1)地域連携教員の設置に関する指針	4 8
(2)地域連携推進計画（例）	4 9
(3)生涯学習全体計画（例）	5 1
(4)年間活動計画（例）	5 2

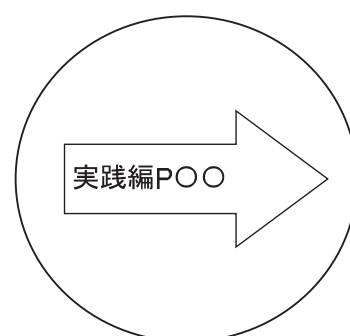
この手引き書の使い方

この手引き書は、地域連携教員の皆さんが、何をどうやって取り組んでいけばよいかを見つけていただくために作成したものです。

そこで、本書は学校と地域の連携に関わる背景等の理論的なものをまとめた「理論編」と、地域連携教員が活動を進めていく上で、どうしてよいか分からなくなる場面を想定し、ケーススタディ的にその進め方をまとめた「実践編」の2編で構成されています。地域連携教員の皆さんが効率的に本書を活用することができるよう、使い方のヒントを以下に示します。

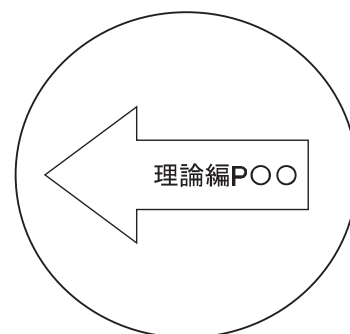
地域連携とは何かについてしっかり学びたい

- まず、理論編（1章～3章）を読んでいただくことをお勧めします。特に、新任の地域連携教員の方、社会教育主事講習を受講されていない方は、一通り目を通していただくことで、学校と地域の連携について学ぶことができます。
- 関連する実践編の事項に関しては、右図のように案内が掲載されていますので、必要に応じて活用してください。



理論的なことより何をすればよいか学びたい

- 理論的なことは既に理解していて、実践面を考えてみたい方は、実践編（4章～5章）から見ていただくことも効果的です。
- そして、4章のScene1「あなたの学校の連携状況を確認する」のチェックシートで、学校の連携体制を確認してから、不足している取組の項目を拾いながら、読み進めていくのも効果的です。
- 関連する理論編の事項については、右図のように案内が掲載されていますので必要に応じて参照してください。



参考資料で掲載されているファイルを活用したい

- 本書に掲載されている様式等については、県のホームページからダウンロードすることができます。

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/m06/tiikirenkeikyouinkatudosienzigyou.html>

栃木県 地域連携教員活動支援事業

検索

